

うるさいときは、
苦情と抗議の
電話をかけよう!

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者 石郷岡 忠男
事務所 大和市桜森3-5-3
フロント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



活動方針を決定した第59回代議員総会

1月16日に行われた厚木爆同第4回執行委員会において、第61回定期代議員総会の開催日時が決まりました。2021年5月8日土曜日9時30分より大和市渋谷学習センターホールにて開催します。ご承知のように新型コロナウイルスの感染が拡大していますので例年総会の後に行われていた懇親会は行いません。また、タイムスケジュールも短縮して9時30分に開会して12時には閉会という日程で行います。詳細は第5回執行委員会(2月20日)に提案されます。今後代議員選出などの行動があります。ご協力よろしくお願ひします。

第61回定期代議員総会
結成60周年記念式典
5月8日に開催

1月16日に行われた厚木爆同第4回執行委員会において、第61回定期代議員総会の開催日時が決まりました。2021年5月8日土曜日9時30分より大和市渋谷学習センターホールにて開催します。ご承知のように新型コロナウイルスの感染が拡大していますので例年総会の後に行われていた懇親会は行いません。また、タイムスケジュールも短縮して9時30分に開会して12時には閉会という日程で行います。詳細は第5回執行委員会(2月20日)に提案されます。今後代議員選出などの行動があります。ご協力よろしくお願ひします。

コロナ禍で見えてきた

厚木基地の現状

昨年3月、アメリカ海軍の原子力空母「セオドア・ルーズベルト」は太平洋を航行中に1200人以上の乗組員が新型コロナウイルスに集団感染し、このうち1人が死亡しました。

この集団感染を調査していた米海軍の報告書によると、「ルーズベルト」はベトナム中部ダナンを出て西太平洋を航行中の3月24日、初の陽性者を確認。指揮権を持つ第7艦隊司令部(横須賀市)が乗組員の隔離場所の検討を始め、沖縄と神奈川の基地か次の目的地だったグアムの民間ホテルに絞られた。司令部はキャンプ・コートニー(沖縄県うるま市)に司令部を置く海兵隊第3海兵遠征軍と協議し、沖縄県の普天間飛行場や海兵隊基地に3千室、厚木基地に400~600室を確保できると試算。この時点では、グアムで十分



厚木基地での違法な同時離陸訓練

な部屋数は確保できていなかった」としています。この計画は①沖縄まで9時間の空路移動でさらなる感染拡大のリスクがある②日本政府との関係を複雑化させる、として断念されましたが、報告書で厚木基地内の住宅施設では400~600室が空いていることが明らかになりました。空いている施設は即時返還を求めます。

聞いて！聞いて！

(厚木爆同会員の声)

海老名支部は会員30余名の小さな支部ですが、毎年夏に平和映画会を開催して来ました。昨午が33回目でしたが、コロナ禍で中止になってしまいました。今年もコロナで開催は危い情勢です。早期収束を願うばかりです。

海老名の北部は爆音コンタ

内に入っていて、特に東柏ヶ谷地区は爆音被害が激しいです。私は海老名の南部(コンター外)に住んでいます。米軍の艦載機が岩国基地に移転になってからは耐えられない爆音は減少していません。

しかし、厚木基地から飛び立つた自衛隊機が訓練なのかもしれない。会員のみなさんの声を募集します。厚木爆同との関わり、厚木基地への意見をお寄せください。

(海老名支部 柴井 等)

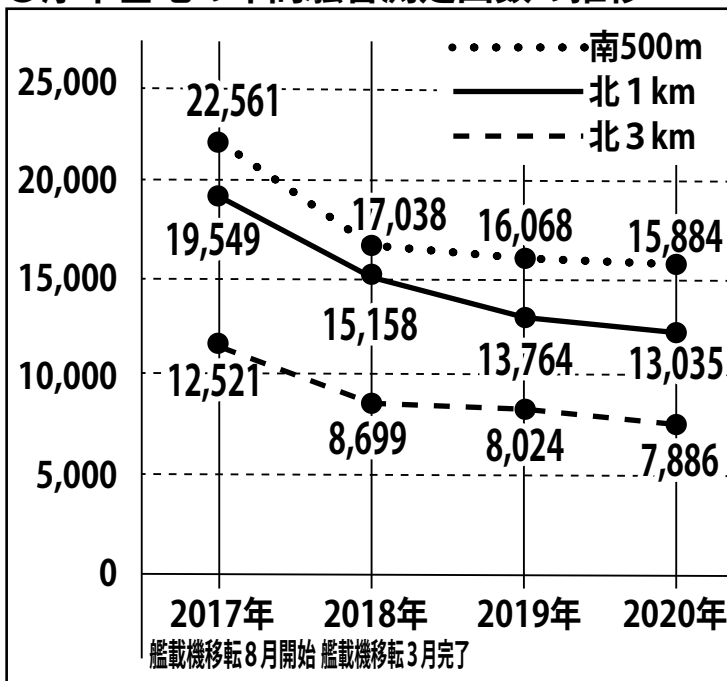
硫黄島の代替訓練施設 馬毛島の現状

また、西之表市議会は昨年12月「馬毛島への米軍空母艦載機離着陸訓練(FCLP)の移転及び自衛隊施設整備に反対し、計画の撤回と計画に係る手続きや調査等の全ての中止を求める意見書」を採択し、国に提出しました。

私たち厚木基地周辺の住民は「基地に依存しない町づくり」を推進することにこそ、持続可能な社会への希望があります。また、西之表市議会は昨年12月「馬毛島への米軍空母艦載機離着陸訓練(FCLP)の移転及び自衛隊施設整備に反対し、計画の撤回と計画に係る手続きや調査等の全ての中止を求める意見書」を採択し、国に提出しました。

年間騒音13,035回 違法騒音月1,000回を超える

●厚木基地の年間騒音測定回数の推移



私たち厚木爆同の長年にわたる抗議活動、監視行動及び裁判闘争の結果、米空母艦載機の岩国移駐が実現しました。この間、騒音測定回数は減少しています。しかし、厚木基地周辺住民にとっては、米軍や自衛隊のヘリコプターは飛行コースに関係なく、低空を飛び回り、自衛隊の対潜哨戒機P-3CやP-1の訓練飛行も厚木基地でタッチアンドゴーを繰り返し、3〜5分おきに騒音をまき散らしているのが現実です。このような中、昨年2020年の厚木基地滑走路北1km地点での年間騒音測定回数(70dB以上の騒音が5秒以上の継続音)は13,035回となり、月1,000回を超える騒音が発生しています。

この回数を昨年と比べてみますと、ほとんど変わらないことが分かります。この事から今後も騒音測定回数は、変わらずに続くことが予想されます。決して騒音が少なくなったといえる状況ではありません。厚木基地周辺住民は相変わらず、月1,000回の騒音に悩まされるのです。私たちは、厚木基地が返還され、静かな空を取りもどすまで、運動に取り組んでいく必要があります。共に力を合わせて頑張らしましょう。

●厚木基地北1km地点 月別騒音測定回数の推移

◆70dB以上の騒音が5秒以上継続したものを1回測定回数は大和市基地対策課の資料より

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間数
2017年	1,596	1,781	2,087	2,429	2,734	1,423	1,104	1,566	1,867	842	1,001	1,119	19,549
2018年	1,286	1,430	1,307	1,461	1,725	1,188	1,096	1,159	945	1,359	1,217	985	15,158
2019年	1,079	1,254	1,421	1,601	1,434	1,081	810	892	1,071	969	1,127	1,025	13,764
2020年	882	1,039	1,168	1,153	1,342	1,197	1,051	1,071	1,050	1,033	1,135	914	13,035



平和運動シンポジウム

平和運動のシンポジウムを開催

「県央共闘会議」主催、「厚木爆同」後援の『平和運動の課題を探る』シンポジウムが昨年12月26日、渋谷学習センターで行われました。

○爆音訴訟これまでとこれから
福田 護さん
○認識のギャップをいかに埋めるか 日本と韓国・本土と沖縄
野村晋作さん
○木更津のオスプレイ反対の取り組み
武藤美好さん
○横須賀からの報告
新倉裕史さん

それぞれテーマで四氏から話を伺いました。内容の一部を紹介いたします。

福田氏：米軍主力艦載機の岩国移駐により異常な爆音は一定程度改善されました。しかし1973年制定の環境基準は未だに達成されていません。静かな生活環境実現をめざす戦いを続けましょう。

野村氏：語り合うことから互いの理解が始まるのです。沖縄の問題では、地元と政府の認識のギャップを埋める為に世論を喚起し、辺野古基地建設反対を複数の可能な運動で創り出し、政府が建設断念することを求めています。

武藤氏：2014年、市が受け入れた定期整備拠点に不安が募ります。陸自

今回は特に女性や若者のスタッフの発想を重視し、イラストやビデオを有効に使うなど判り易い展示を工夫しました。若い人にも理解しやすいと考え、東名高速や相鉄線の大和トンネルと厚木基地の関係から展示をスタートし、住宅密集地の真ん中に厚木基地がある事実や館野鉄工所・緑区の墜落事故、その事故で日本の警察や消防車が現場にも入れなかった事実など、そのすべての原因が日米地位協定にあることに気づいてもらうことを主眼において実施しました。

300人近い人が来訪し、200人近い人が感想を寄せてくれました。中には「ずっと大和市に住んでいるが、墜落事故があったことは知らなかった。」「日米地位協定という言葉はニュースで

日米地位協定を考える パネル展開催



日米地位協定を考えるパネル展

厚木爆同も実行委員会に参加し、共同代表として取り組んだ「日米地位協定を考えるパネル展」が昨年12月13日(日)、14日(月)の二日間、大和シリウスで開催されました。

今回は特に関心を持って参加したことはなかった。「こういう企画があったらまた参加したい」といった若い人の感想もありました。

会場には厚木爆同のパンフレットも置き、勧誘もしました。このような形で市民へのアピールも大切だと感じました。